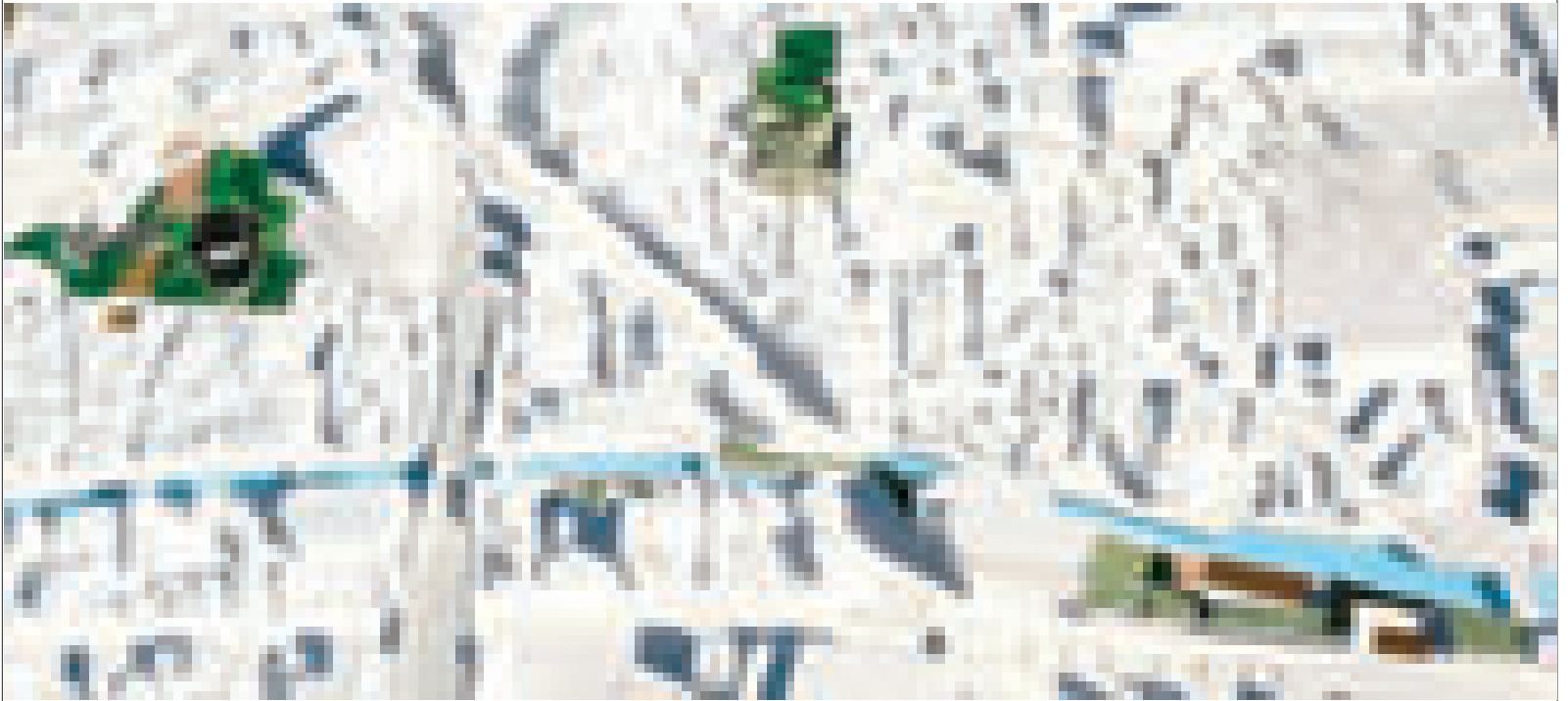


トーキョー・ネットワーキング・パーク アクティビティと場所性を重視した分散型都市公園の設計

敷地である東急東横線中目黒駅と東急東横線代官山駅付近は、山手通りや駒沢通り、東急東横線、目黒川などの都市環境要素が混在する場所である。また、周辺には住宅街やオフィス街、繁華街があり、時間帯によって定住者の他に会社員や学生、買い物客など多様な人々が活動している。しかし、この地域には中小規模の公園や公共施設が孤立して存在するのみで、それらも実際には有効に機能していない場合が多い。そこで、この場に特有の「アクティビティ」や空間的性格を反映させることで、特定の敷地を越えた地域全体に広がる都市公園を生むことができる。



都市空間のリノベーションとしての公園

ここでは、公園や空き地などを抽出し3種類の公園を設計する。また、これらの分散する敷地を、既存の都市環境要素と新たに提案する建築プログラムによってネットワーク化する。さらに、季節ごとにインスタレーションや祭、フリーマーケットなどのイベントを企画し、それぞれの動線を引き込むことで、周辺環境と一体化した公園が成立する。



アンティ・パーク
細長く高低差のある大きな敷地に、周辺環境との交流点となる施設を点在させ、人々を巻き込む。

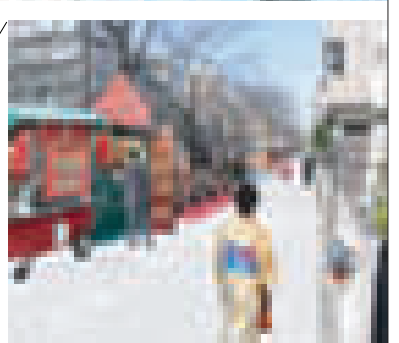


会社などが休みの日曜日は、駐車場がカフェになる。

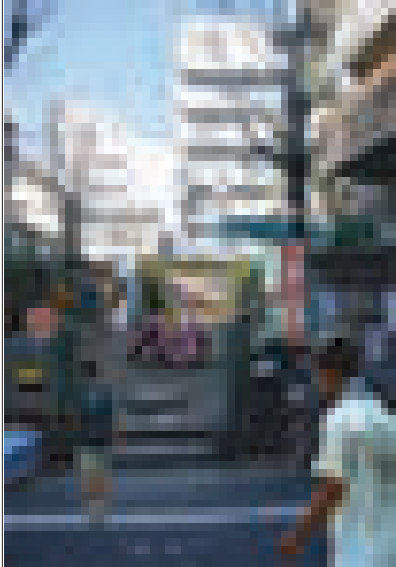
芸術の秋には、町全体が展示空間となる。



ナツ・パーク
平面的に広がるなだらかな傾斜地である敷地に、4種類の楕円の広場を配置し、公園と周辺環境との境界を曖昧にする。



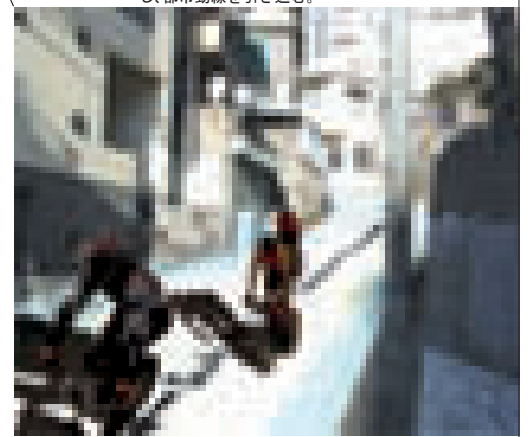
春と秋には祭が行われ、出店の通りができる。



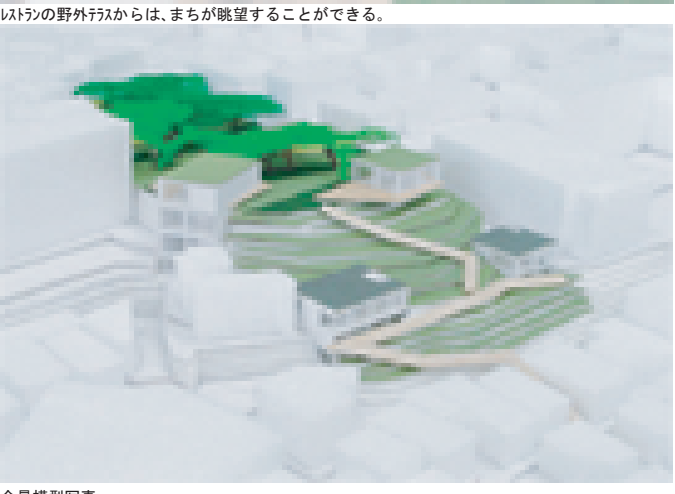
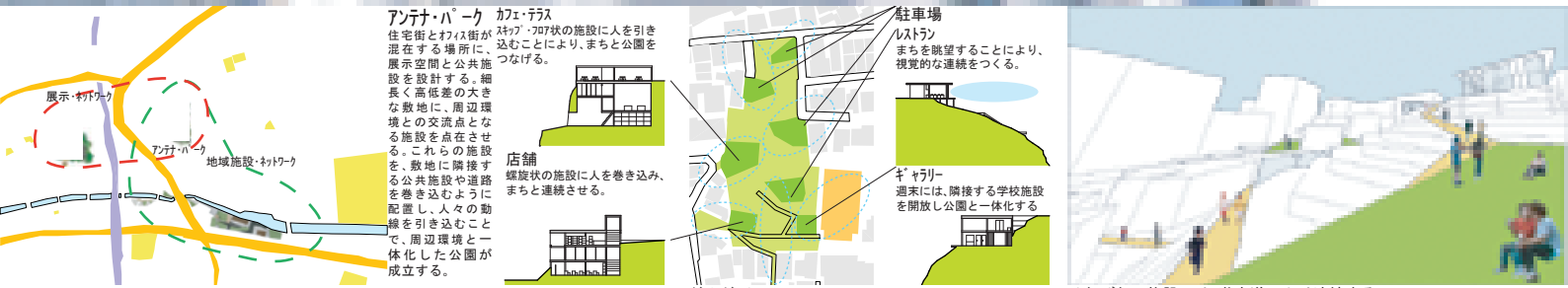
春は、青空コンサートが行われる



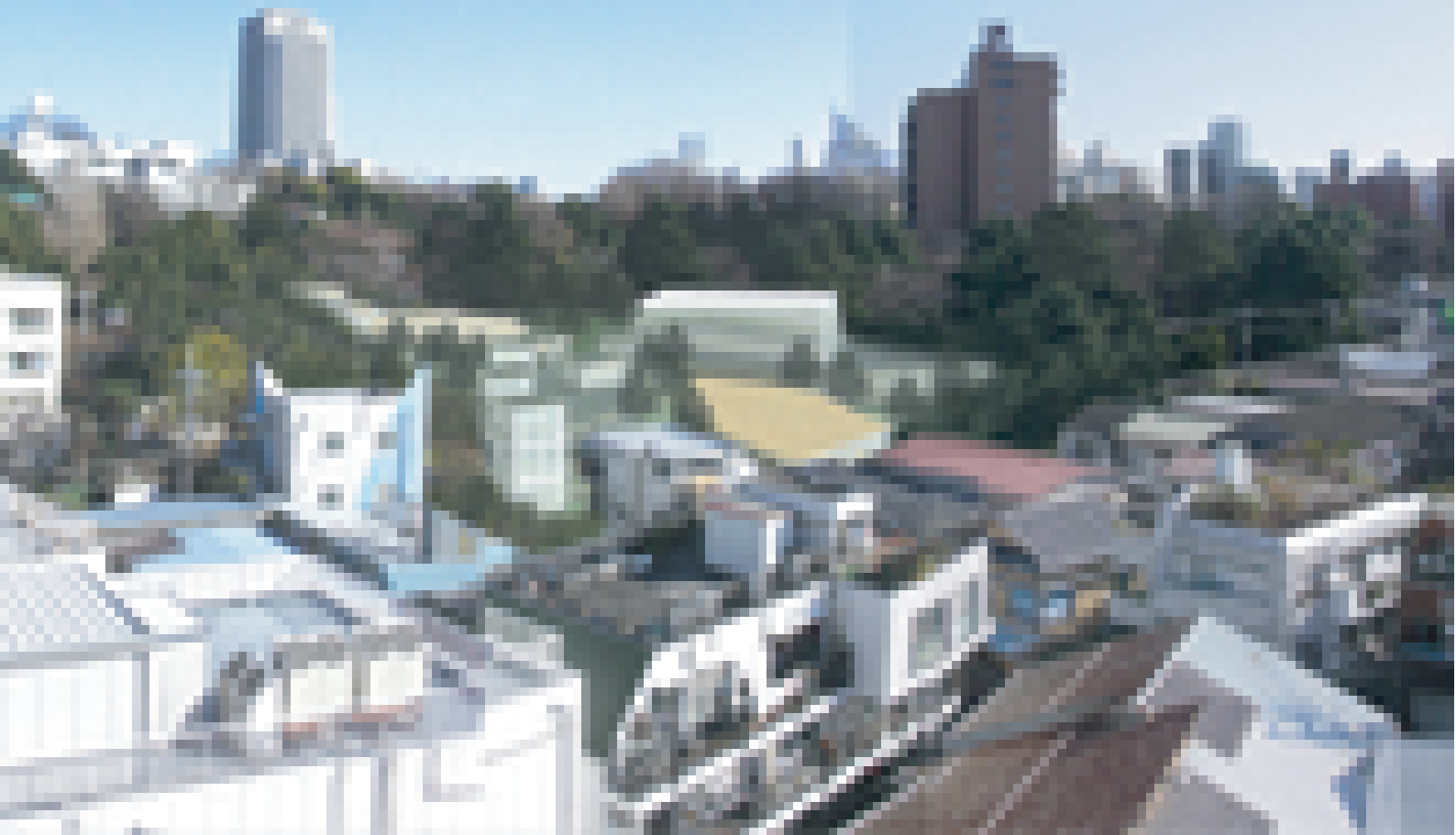
梅雨明けの7月には、増水した目黒川で川くだりが催される。



春はそれぞれの公園を中継ポイントとしたレースが行われる。



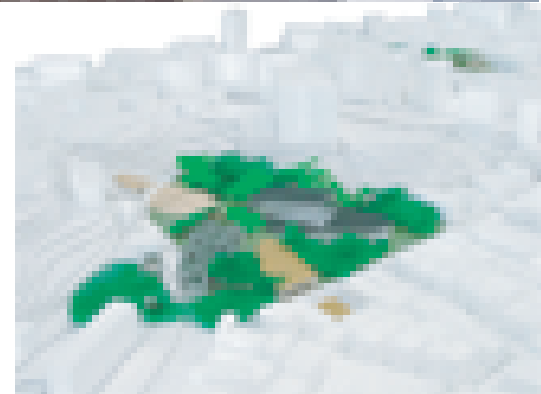
ナッツ・パーク



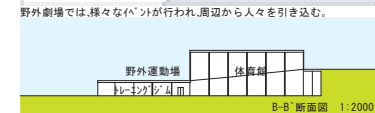
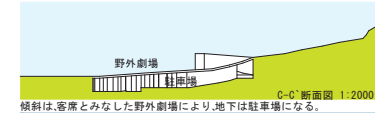
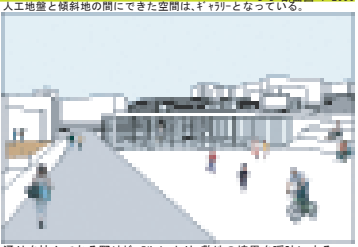
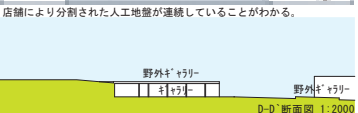
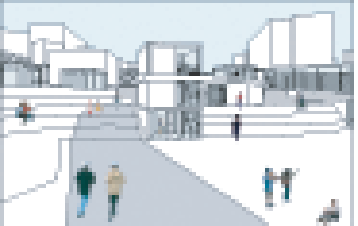
ナッツ・パーク
 繁華街と住宅街が混在する場所に、展示空間とスポーツ施設を設計する。平面的に広がるなだらかな傾斜地である敷地に、4種類の楕円の広場を配置し、公園と周辺環境との境界を曖昧にすることで周囲に拡散する公園が成立する。



野外運動場から野外ギャラリーを眺めると公園が周辺と一体化していることがわかる。



全景模型写真



スネーク・パーク

